

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 神山 太郎



JNSA会員の皆様、はじめまして！  
そして、同じ号で二度目の登場（インシデント被害調査WGの紹介）ですみません！  
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 サイバー保険室の神山と申します。  
事務局からのご用命により自己紹介の機会をいただきました。よろしくお願ひ致します。

■経歴等

小職、損害保険会社の商品開発部門に20数年在籍しており、保険約款の作成、保険料（料金）の設計、監督官庁との折衝、募集ツールの作成といった仕事をしています。ここ数年は、サイバー保険に特化した企画・開発・推進といった仕事をしています。

IT業界との関わりは、これまた20数年前…。Windows95の時代です。その当時は、今とは別の保険会社にいたのですが、とあるセキュリティベンダさんからのオーダーで、その提供するサービスの顧客向けに、ネットワークの管理に起因して損害賠償責任を負った場合の保険（現在のサイバー保険の原型ともいえる商品）を設計したことが思い出されます。

今となっては、このような手法（サービスに保険をバンドルすること。我々の業界では「商品付帯契約」と呼んでいます）に取り組むことは、一般的といえますが、実は、意外と昔からあったということになります。

その後、2005年の個人情報保護法の施行に伴って情報漏えい保険を設計をしたり、2014年にサイバーセキュリティ経営ガイドラインの策定に立ち会ったり（保険会社社員としてオブザーバー的に端っこに座っていただけですけど）、2015年にサイバー保険（当社商品名は「サイバーセキュリティ保険」）を設計したりと、IT関連の保険にずーっと携わって今に至るところです。

なお、インシデント被害調査WGの紹介でも書きましたが、IT業界にいたわけではないので技術的なことは詳しくはわかっていない人間でもあります（Twitterでの著名な方のツイートであったり、たまねぎ系リンクサイトを定期的に眺めたりと、情報収集はしていますが…）

■JNSAとの出会い

当社は、2015年にサイバーセキュリティ保険を販売し始めたのですが、セキュリティ業界との接点をもっと深めていかねばと考えていたところ、JNSAのとあるWGからサイバー保険を教えて欲しいとお声がけいただいたのが、JNSAとの出会いになります。

その後、損害保険会社（本体）として唯一の会員になり、今に至るところです。

■最近の関心事

とにもかくにもランサムウェアです。

欧米の保険業界はランサムウェア被害によって収支が悪化しており（特に事業中断による損失の支払い）、保険料（料金）の値上げ、引受の制限（お支払いの限度額の引き下げ等）を図っています。日本においてもこのような状況にならないかを常に注視していく必要があると思っています。

なお、保険業界はランサムウェアのエコシステムの一部を担っているというハナシがあります。というのも欧米の保険会社ではサイバー保険において身代金も補償対象にしていたりするからです（日本の保険会社のサイバー保険では身代金は補償対象外です！）。現に、とあるメディアのインタビューにおいてランサムウェアの犯罪グループとして有名なREvilのメンバーが「保険会社の顧客データを狙っている」として、身代金を払ってくれるであろう企業をターゲットにしていることを語っています。

「日本の保険会社のサイバー保険は身代金は補償対象外！」ということを発信していくことが必要なんだろうと個人的には思っているところです。

■最後に

サイバー保険というのはサイバーレジリエンス、復旧・再発防止のための一助といえます。フォレンジック調査ほかインシデント発生後の対応（事後対応）をコスト面から支えるということです。

今後、サイバー攻撃の脅威がさらに増していくなかで、セキュリティ業界の方々とともに企業・組織のセキュリティ対策の向上のお手伝いができればと思っています。ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。

会員紹介 (当コーナーでは、JNSA で活躍されている会員の方に、リレー方式で自己紹介をしていただきます。)

富士通株式会社 峯浦 梨紗



JNSA会員の皆様、はじめまして。富士通の峯浦と申します。この度、西日本支部長の元持様よりご紹介いただきました。この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。

私は入社以来、ネットワークやIP電話などのコミュニケーションシステムの構築作業やプロジェクト管理を中心に業務を行ってきました。7年ほど前からセキュリティに関するプロジェクトに参画するようになり、主にお客様の情報システム部門の方々に対して、セキュリティ対策の現状評価から対策立案の策定までの支援を行う業務に携わっています。また、社内での業務ではありますが、ISMS認証取得・継続のための監査対応や部内のセキュリティ担当者としての活動を行っており、部内・社内のセキュリティ品質の維持向上に努めております。これらの業務に加えて、最近ではフィリピンやインドに在籍するメンバーと協力してプロジェクトを推進しています。その際にも、情報の取り扱いに関するルールの周知や遵守状況の確認、システム構築時のセキュリティ品質維持などの情報セキュリティマネジメントは欠かすことができません。このように形は様々に異なりますが「セキュリティ」と向き合う日々を送っています。

JNSAとの出会いは、2015年になります。同じ会社の岡本さん、嶋倉さんにご紹介いただき、大阪で行われたセミナーを聴講させていただいたことが始まりです。それまでの私の仕事に関する社外の方々とのつながりといえば、お客様や仕事で一緒する関係会社の方々のみでしたので、このセミナーは会社や組織の垣根を越えた活動というものをほぼ初めて目の当たりにしたイベントでした。情報セキュリティの啓発や品質向上という目的のもとに活発に議論や講演が行われ、その熱気と初めて体験する雰囲気刺激を受けたことが強く印象に残っています。その際に「今後は会員として参加したい」という思いもあったのですが、当時は会社の業務と日常生活で手がいっぱいだったこともあり、その後も何度かセミナーに足を運ぶのみでした。しかし今年度、岡本さんが工場のセキュリティを検討するWGを立ち上げる際に声をかけられたことを機に、WGに参加させていただくことになりました。現在の私は関西在住で育児中ということもあり、一度参加を諦めた時同様に慌ただしい毎日を送っていますが、会議も資料共有もオンライン形式ですので、今回は対応できると判断しました。これまでは、開催場所や時間の制約上、各種会議やイベントへの参加は諦めることが多かったのですが、昨年度から今年度にかけてはWGだけではなくSECCONの皆様が主催されたCTFやCTF for Girlsのセミナーにも参加することができました。今後も時間を作って多くの活動に参加したいです。

まだまだ勉強中の身で知識の習得が中心とはなりますが、まずはWGの活動を通して、微力ながら成果物の作成に貢献できればと思っております。どうぞよろしく願いいたします。